

ちのわ祭りの起源 (茅輪神事縁起)

「夏越しの祓い」は、平安時代に編纂された「備後風土記」等にも登場する説話が、この祭りの起源を語っているようです。その内容は――

かの所に蘇民将来と巨旦将来という二人の兄弟が住んでいました。ちょうど、武塔神(素戔嗚尊)がかの所で、日が暮れてしまい一夜の宿を借りようと歩いていると、大きなお屋敷がありました。そこは弟の巨旦将来の家でした。立派な家屋と一〇〇ちかい倉がありました。ここならどこか片隅を貸してもらえらるだろう、と尊はその家を訪れました。ところが物欲の強い主人・巨旦将来は、自分の財物が減ると、けんもほろろに尊を追い出してしまいました。

しかたなく、一軒の粗末な家を訪れ一夜の宿を請いました。そこは兄の蘇民将来の家でした。非常に貧しい生活でしたが、粟がらで座を造り、粟飯を炊いて出来る限りのもてなしをしました。これに感激した尊は、このことを忘れず、数年後、蘇民将来の家に来てこういいました。「おまえの恩に報いよう。家族みんなの腰に茅の輪を付けさせなさい」と言った。その夜、茅の輪を付けていないものは全て死んでしまった。そして、立ち去るとき尊は「のちのち、疫病などが流行ったら蘇民将来の子孫だと言えは、逃れることができるだろう」と言った。いらい、茅の輪には厄災除けの霊力があると語り伝えられています。



高知県南国市十市鎮坐

(十市保育所上)

新宮神社 宮司・森國英夫

電話〇八八―八六五―五二二三

FAX〇八八―八六五―五四〇四

<http://www.amy.hi-ho.ne.jp/aicon-m/> E-mail=aicon-mh@amy.hi-ho.ne.jp

新宮神社 夏越しの祓い

(なごしのはらえ・大祓・茅の輪くぐり)

罪穢れを祓い暑い夏を無病息災で越すための祭りです。

新宮神社のご祭神は伊弉諾尊、天照大神、素戔嗚尊の三神です。

伊弉諾尊(父)と伊弉冉尊(母)が父母で、天照大神(姉)、素戔嗚尊(弟)という関係です。

素戔嗚尊は大変な暴れ者で、天の岩屋戸の事件を引き起こし、高天原を追放されて出雲の国へ行き、八岐大蛇を成敗し天叢雲剣を得て天照大神に献じたという。素戔嗚尊はまたの名を武塔神ともいわれます。備後風土記には尊が南海の方へお出かけになったときの様子が綴られています。このお話が「夏越しの祓い」の起源となっております。裏面をご覧ください。素戔嗚尊は牛頭天王の垂迹ともいわれます。牛頭天王は、祇園精舎の守護神であり、京都の祇園社・八坂神社のご祭神・素戔嗚尊Ⅱ牛頭天王でもあります。このために祇園祭といわれるわけです。

茅の輪をくぐるとき

唱え言葉 (左①↓右②

↓左③と3かい回る)

①みな月のなごしの祓
いする人は、千年の命
のぶといふなり

②思うことみなつきぬ
とて麻の葉をきりに切
りても祓いつるかな

③蘇民将来。蘇民将来
(繰り返して唱える)

